

風

宮田守男
ファイナル
(現場)からの

季節齋の七十二候に
よると、今日は「蚕
(かいこ)起キ桑ヲ食
ウ」。私の実家でも昭
和30年代に自宅2階で
蚕を飼っていた。普段
は物音のつないのだ

が、桑の葉の下で眠っ
ていた蚕たちが起き出
してシャワシャワと微
かな物音の懐かしい思
い出がある。だが当時
の蚕は水に弱く、雨で
濡れた桑の葉を乾かさ
ず作業は辛く、雨を恨ん
でしまふほどだった。
蚕の改良により自宅内
ではなく雨除け施設で
飼うことができるよう
になった時期には、絹
の需要も激減して農家
での飼育はほとんど無
くなってしまい、今で
は蚕の飼育経験は貴重
な体験だった。

106年前の大正8
年の今日発刊された明
治生まれの哲学者・和
辻哲郎の「古寺巡礼」
での金堂薬師寺如来の
表現で、「その巨大なか
らたを、上から下へと
ながめおろしている瞬
間に、柔らかなまげた
右手と豊かな太腿との
間から、向こうにす
わっている本尊薬師如
来の、とろけるような
美しさを持った
横顔が、また電
光の素早さでわ
れわれの目を
奪ってしまう」の内容
は、まるで映像が見え
てくるように情感情が
さびに感動させられる。
毎週掲載するコラム原
稿の表現を読者が映像
化させられたらと願っ
てしまふ。

また私たちが使って
いる言葉には「話し言
葉」と「書き言葉」が
ありビジネスメールで
気を付けたいNGフ
ーズについてYah
ooニュースに「自分
力・日本力向上委員
会」の委員長・高谷治
美さんが書いている。

自分力(人間力)を 磨く学びが必要だ

「自分力・日本力向上
委員会」とは、日本人
と日本の社会の幸せな
発展を願い、その核を
為すものである。「自分
力(人間力)」と「日
本力」が向上すること
を目的として、自分の
素晴らしさ・日本の素
晴らしさ・人生の素晴
らしさを伝える「人間
教育」を普及する活動
をしている組織だ。
「必ず必要です」や
「まず最初に」はよく
使ってしまう二重表
現。「大丈夫です」は肯
定なのか否定の意味に
なるかわかりま
せん。「とって
も」は「たいへ
ん」に。「超」は
「非常に」。「いっば
い」は「数多く」に。
「たくさん」は「豊富
に」。日時は「いつが
いいですか」は「ご都
合の良い日はあります
か。候補をいくつか
いただけると幸いです」
に。謝る場合「すみま

せん。ごめんさい」
はビジネスメールでは
使いません。など普段
使う文章を改めて学び

直まなくてはと思えた
情報に感謝た。
(信州地域社会フォー
ラム会員・白馬村森上)



代かきが終わり、水を張った状態の田を、夏の季語
で「田水張(たみずは)る」多くの作付けを願う